

令和4年8月12日

課名	総務学事課
担当	大杉・安田
内線	2311・2312
直通	086-226-7199

お 知 ら せ

第55回（令和4年度）岡山県三木記念賞受賞者決定
－授与式を挙ります－

故 岡山県知事三木行治氏が受賞されたマグサイサイ賞の賞金等を原資とした基金により、地域社会の発展に貢献した者を顕彰する岡山県三木記念賞について、第55回（令和4年度）受賞者を次のとおり決定しました。

1 受賞者決定までの経過

- ・ 4月19日（火） 候補者の募集開始
- ・ 5月18日（水） 推薦締切り ※候補者数 6名
- ・ 7月 6日（水） 第1回運営審議会……受賞候補者選考の諮問
- ・ 7月25日（月） 第2回運営審議会……受賞候補者の選考及び答申

2 受賞者（表彰状・メダル及び賞金30万円）

氏 名	年齢	役 職 等
たかしな しゅうじ 高階 秀爾	90	大原美術館 館長
ありもり ゆうこ 有森 裕子	55	認定特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド 代表理事

3 授与式

- (1) 日 時 令和4年8月31日（水） 11時00分から
- (2) 場 所 ルネスホール（岡山市北区内山下1-6-20）
- (3) 出 席 者 受賞者、知事、議長、過去の受賞者等 約25名

4 その他

今回の受賞者で累計の受賞者は231名となります。

三木記念賞

東京都
たかしな しゅうじ
高階 秀爾 (90歳)

1 主な経歴

昭和28年	3月	東京大学教養学部教養学科卒業
昭和46年	7月	東京大学文学部 助教授
昭和54年	4月	東京大学文学部 教授
平成4年	4月	東京大学 名誉教授 (現在に至る)
平成4年	4月	国立西洋美術館 館長 (~平成12年3月)
平成9年		パリ第一大学 名誉博士 (現在に至る)
平成12年	6月	西洋美術振興財団 理事長 (現在に至る)
平成14年	4月	大原美術館 館長 (現在に至る)
平成16年	4月	倉敷市文化振興財団 アドバイザー (現在に至る)
平成19年	12月	岡山県新進美術家育成「I氏賞」 選考委員長 (現在に至る)
平成22年	12月	日本美術協会 理事 (現在に至る)
平成23年		高松宮殿下記念世界文化賞 (絵画・彫刻部門) 選考委員長 (現在に至る)
平成27年	11月	日本芸術院 会員
令和2年	10月	日本芸術院 院長 (現在に至る)

2 功績の概要

氏は、昭和7年東京に生まれ、昭和28年に東京大学教養学部教養学科を卒業後、昭和54年に東京大学文学部美術史科教授に就任、その後、国立西洋美術館館長、西洋美術振興財団理事長を歴任し、西洋美術史研究における第一人者として、国内外でその功績が高く評価され、文化勲章、フランス レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエ章、イタリア グランデ・ウフィチャーレ勲章など多数の賞を授与されている。

また、優れた芸術家を優遇顕彰するために設けられた国の榮譽機関である、日本芸術院において、平成27年からは会員、令和2年からは歴代11人目となる院長として、芸術に関する国の重要事項を審議している。

本県においては、平成14年に大原美術館館長に就任し、幅広い層の方を対象とした数々の企画運営に努め、先人から託された美の財産を余すことなく提供し、本県を代表する観光地である、倉敷美観地区の拠点として、国内外からの多くの観光客を誘客することに繋がっている。また、大原美術館の運営の方向性を観光客対応中心から地域重視へ転換させるとともに、次世代を担う子供たちへの美術教育の普及に尽力するなど、幅広く先覚者としての活動を展開された。氏の貢献により、大原美術館は、日本を代表する美術館として全国から注目される存在となった。

平成19年には、岡山県新進美術家育成「I氏賞」選考委員会委員長に就任し、設立当初から選考委員会委員長として、本県において将来の文化を担う若手美術作家の育成に力を注ぎ、本県における地域文化の発展に大きく貢献されている。

以上のように氏の功績は本県のみならず、我が国の芸術文化の発展に大きく貢献しており、その功績は誠に顕著である。

三木記念賞

東京都

ありもり ゆうこ
有森 裕子 (55歳)

1 主な経歴

- 平成 元年 3月 日本体育大学体育学部体育学科卒業
- 平成10年10月 ハート・オブ・ゴールド（現在は、認定特定非営利活動法人
ハート・オブ・ゴールド） 代表理事（現在に至る）
- 平成14年 1月 国連人口基金 親善大使（～平成22年12月）
- 平成19年 4月 日本陸上競技連盟 理事（～令和3年6月）
- 平成20年 4月 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 理事長
（現在に至る）
- 平成27年11月 おかやまマラソン スペシャルアンバサダー（現在に至る）
- 令和 3年 6月 日本陸上競技連盟 副会長（現在に至る）

2 功績の概要

氏は昭和41年岡山県岡山市に生まれ、就実高等学校を経て、日本体育大学に進学、卒業後はリクルートに入社した。

平成4年のバルセロナ五輪では銀メダルを、平成8年のアトランタ五輪では銅メダルを獲得し、日本女子陸上選手として初の二大会連続のメダル獲得という快挙を成し遂げた。

また、氏は競技と並行して「スポーツを通じて、国境・人種・ハンディキャップを超えた、『希望と勇気』の共有を実現する。」ことを目指し、平成10年にハート・オブ・ゴールドを立ち上げ、代表理事に就任している。

カンボジアに対しては、平成8年の第1回アンコールワット国際ハーフマラソンに大きく関わり、内戦で傷付いた子供たちを支援するなどの献身的な取り組みを長年続け、平成22年にカンボジア王国よりロイヤル・モニサラポン勲章大十字を受章された。活動は、日本国内でも評価され、国際交流基金地球市民賞、JICA 理事長賞などを受賞している。

また、平成20年からはスペシャルオリンピックス日本の理事長を務め、知的障害のある人のスポーツを通じた社会参加を促進し、障害の有無にかかわらず共に生きる共生社会を目指す活動を行っているほか、令和3年からは日本陸上競技連盟の副会長として、陸上競技全体の普及、振興に尽力している。

本県においては、「おかやまマラソン」の第1回から現在に至るまでスペシャルアンバサダーとして大会の成功に尽力しているほか、県下の小学校や高校での出前授業やチャリティーマラソンの実施など、積極的な活動を行っている。

以上のように、氏は競技において輝かしい結果を残したことに加え、私心無く国内外で社会貢献活動を続けている。このことは本県の発展に大きく貢献するものであり、その功績は誠に顕著である。